

視察園概要③ 田東山麓自然卵農園(株) 【平成25年3月設立】

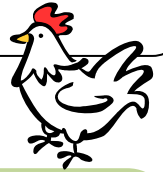
代表取締役： 大沼 清功（47歳）



視察場所：南三陸町歌津字田表15

TEL：0226-25-9799

家族構成：本人、妻、娘



「皆さんこんにちは！」

当園は、鶏の健康を一番に考えています。

肉体的にも精神的にも充実した日々を送れる様に、あらゆる面での環境を整えてあげるのが、園長としての私の役割です。

1. 経営内容

① 飼養羽数：250羽（目標：700羽）

※ 現在、仮の農地のため、復興工事終了後、移転予定。

② 販売品目：自然卵＋加工（クレープ）

販売先：移動販売車、さんさん商店街、
直売所（もくもくランド 他）

2. 経営の特徴

① 地鶏の自然卵の生産

自然卵とは、平飼いで、園長の愛情レシピ（地元産の自家配合の餌[※]）で育った健康な鶏が生むおいしい卵のことです。

※ 田東山の天然水、南三陸町のワカメ、小エビ、小松菜、ほうれん草、かぼちゃ
果物、米、麦などなど。

② 子供達の食の安心・安全を考えて抗生剤など、一切与えていません。

平飼いでストレス無く健康に育った鶏は、強健で生命力に溢れている為、抗生剤や抗菌剤を一切使用していません。また、不自然な黄身の着色行為もしていないので、季節ごとに与える餌により黄身の色が変化します。

③ 甘みと旨味、コクがあって驚くほど膨らむ魔法の卵「卵皇（らおう）」

平飼いで日光を浴びて元気に走り回って育つ鶏の卵は、殻も身も硬く濃厚です。お菓子作りに使用すると白身が固いので、むくむくとメレンゲが立ち弾力がおちることなく膨張剤無しでしっかりスポンジが膨らみます。

一日のお仕事

時間	行動内容
7:00	機械スタート
8:00	餌・水給与
9:00	
10:00	集卵
11:00	
12:00	昼食
13:00	餌配合 ↓
14:00	集卵
15:00	餌給与 (青物) ↓
16:00	水給与

3. 就農準備

「10年間クレープを焼き続けた答えは、自ら美味しい卵づくりに挑戦すること」でした。

① 決意した時期・きっかけ

そもそもは、2004年に妻が移動販売車でクレープの販売を開始。真においしいクレープづくりの追求から‘自然卵’への関心が徐々に芽生えました。また、娘のアレルギー発症もあり、‘自然卵’への関心が高まっていきました。そんな時、2011年3月に東日本大震災で自宅兼加工場を流失。18年間勤めた会社も被災し解雇に。今後の進む道を悩んだ末、自然養鶏の道を決意しました。

② 研修

震災から3ヶ月後の2011年6月自然養鶏を学ぶため家族で、北海道江別市へ研修に移住しました。

研修2年目には、小さなクレープ店も開店し、スイーツ店がたくさんある札幌近郊でどれだけ受け入れられてもらえるのか販売実習も行いました。

研修を始めて1年半が過ぎた2012年12月、ふるさと南三陸町への帰郷の準備のため単身で戻り、鶏舎建設の準備を行いました。

2013年4月子供達の学年修業を終え、家族で帰省。就農を果たす。

- ・2013年3月1号棟鶏舎完成
- ・2013年9月2号棟鶏舎完成
- ・2013年10月南三陸町の復興商店街に空きがでて借りることができました。内装は、自前で行い、11月開店することができました。

4. 経営を開始しての感想

- ・研修先の北海道では、消費者に自然卵が浸透していたが、地元では、こだわりの‘自然卵’がなかなか周囲から認めてもらえず、説明をしながらの販売で、ジレンマが大きかった。
- ・おもしろいことをやらないとダメ。ここでは、販売量では勝負できない。特色を出すことが大事。しかし、リスクが伴う。

5. 新規参入者希望者へ一言

- ・「やめろ！こんなものやるもんじゃない。」(江別市の師匠の言葉から)
～いいことがない。自分の想いと現実のギャップが必ずある。



津波被害で、山土を持った農地



相棒のぽんぽこ防衛隊長ポン